

農家蔵保存利活用による地域づくり

【応募者】 氏名：特定非営利活動法人 尾上蔵保存利活用促進会 理事長 小野正博

連絡先(事務局)：TEL(0172)57-5190, FAX(0172)57-5190(担当：佐藤正彦) Email: kura-334club@smile.ocn.ne.jp

【応募理由】

農村の住文化の一部を形成する農家蔵を保存利活用した街なみ・地域づくりに取り組んでいることから、この度応募しました。

【作品または活動の概要】

当会設立以来、平成15年の「NPO法人 尾上蔵保存利活用促進会」への移行を経て、「蔵保存と利活用促進、グリーン・ツーリズム事業の推進基盤の確立と事業定着拡充」を目的に、青森県平川市金屋地区において、①蔵の調査と蔵マップ



●印及び数字は蔵マップの蔵並みの順番
★印及び数字は蔵マップの蔵並みの順番と国登録有形文化財

の発刊、②会報『蔵ジャーナル』の発刊、③蔵フォーラムの開催、④蔵・農家庭園ウォッチングの開催、⑤地域案内人講座開催、⑥蔵の利活用拠点づくり、蔵並みの環境整備に関する提言、⑦登録有形文化財調査及び登録申請、⑧年賀葉書寄附金助成採択蔵の補修工事実施、⑨民宿営業許可登録の推進、⑩教育旅行誘致活動の実施、⑪冬のツーリズム尾上農家蔵物語開催などに取組み、価値が見失われその存続が危ぶまれていた蔵の保存と、蔵を活用するグリーン・ツーリズム事業を展開し、旧尾上町ならではの農村文化を発信するとともに、農村文化が漂う街なみ・地域づくりに取り組んでいます。

【作品または活動の特色】

農村景観が維持された町として各種の賞を受賞し、全国的にも高く評価されている街並み(蔵・庭園・生垣)を、他市町村にない地域のオンリーワンと位置づけ、蔵の保存と利活用促進及びグリーン・ツーリズム事業を推進し、近年、失われつつある農業と農村の持つ豊かさ、農村文化の漂う地域づくりを指標に蔵所有者及び地域住民、都市住民(消費者・学生・子供)による農家蔵の景観維持とグリーン・ツーリズム融合の地域づくりを展開しています。

農家蔵保存利活用とグリーン・ツーリズム 蔵の景観維持とグリーン・ツーリズム融合の地域づくり

青森県の津軽平野の中心地、弘前市に隣接する旧尾上町(現平川市)において、農村風景を特徴づける農家の蔵を現代にも通じる価値の発見と、地域資源を活用した農村文化理解希求のグリーン・ツーリズム事業展開により蔵を活用した地域づくり、そして修学旅行農作業体験ファームステイやエンガツジスクール、セカンドスクールなど主軸の受入れを旅行会社との連携で推進しています。

特定非営利活動法人尾上蔵保存利活用促進会

代表者：理事長 小野 正博
連絡先：〒036-0242 青森県平川市猿賀南野53-10
TEL: (0172)57-5190 FAX: (0172)57-5190
開始年度：平成14年1月(NPO法人認証15年8月)
会 員：75名

◇取組みの背景と経緯

蔵・庭園・生け垣の多い地域

旧尾上町(現平川市)は青森県南津軽郡の中心に位置し、西に岩木山、東は八甲田山系に囲まれ、人口約10,500人、面積18.87km²(東西9.6km南北3.7km)で、米とリンゴ生産を主体とする農業の地域です。町内には蔵とツボと呼ばれる庭園が多く、農村アメンティコンクール優秀賞や農村景観百選など各種の農村景観賞を受賞し、全国的にも高く評価されています。農村景観を特徴づけているのが蔵、庭園であり、334棟の蔵が現存し、所有者の約94%が農家の方々となっています。

町内の蔵で、最も古いものは1858年(安政5年)に建造された蔵であり、終戦後、小作人から自作農となった農家の目標は蔵を建てることでした。成功の証とされた蔵は、昭和25~38年代の建造ブームを経て現在の数となっています。当地の蔵は、1階が農産物の貯蔵蔵、2階が文庫蔵であり、出荷調整による農業経営基盤の確立を実現した蔵は、嫁婿を貰う判断基準の一つとなるなど、地域の繁栄の象徴とされてきました。しかし今日、蔵は富の象徴としての価値観や景観評価は低下し、蔵の減少が危惧される中、町内外賛同者26名で平成14年1月に当会を設立しました。

◇活動の概要 農家蔵の新たな価値を再発見・文化継承

設立以来、平成15年の「NPO法人 尾上蔵保存利活用促進会」への移行を経て、「蔵保存と利活用促進、グリーン・ツーリズム事業の推進基盤の確立と事業定着拡充」を目的に、①蔵の調査と蔵マップの発刊②会報『蔵ジャーナル』の発刊③蔵フォーラムの開催④蔵・農家庭園ウォッチングの開催⑤地域案内人講座開催⑥蔵の利活用拠点づくり、蔵並みの環境整備に関する提言⑦登録有形文化財調査及び登録申請⑧年賀葉書寄附金助成採択蔵の補修工事実施⑨民宿営業許可登録の推進⑩教育旅行誘致活動の実施⑪冬のツーリズム尾上農家蔵物語開催などに取組み、価値が見失われその存続が危ぶまれていた蔵の保存と、蔵を活用するグリーン・ツーリズム事業を展開し、旧尾上町ならではの農村文化を発信しています。



蔵・農家庭園ウォッチングの参加者

◇活動の特徴 農家蔵を農村文化の発信拠点に

農村景観が維持された町として各種の賞を受賞し、全国的にも高く評価されている街並み(蔵・庭園・生垣)を、他市町村にない地域のオンリーワンと位置づけ、蔵の保存と利活用促進及びグリーン・ツーリズム事業を推進し、近年、失われつつある農業と農村の持つ豊かさ、農村文化の漂う地域づくりを指標に蔵所有者及び地域住民、都市住民(消費者・学生・子供)による農家蔵の景観維持とグリーン・ツーリズム融合の地域づくりを展開しています。



20年5月24日 農家蔵の館完成



郵便事業年賀葉書寄附金助成補修工事



冬のツーリズム尾上農家蔵物語

◇他団体との連携 教育・産業・NPOとの連携

蔵の現代的価値を発揮するため、弘前大学と町内蔵の合同調査や八戸工業大学と連携の登録有形文化財調査、大学生・柏木農業高校生らの蔵・農家庭園ウォッチングガイド養成、農作業体験ファームステイの受入農家開拓を目的とした同大学生のファームステイ受入れなど、地域の教育機関との連携で事業を展開しています。また、尾上町商工会と共催で「蔵巡り・庭園巡り」を実施(共催条件として、平成4年から10年間無料開放してきた運営方法の見直しを提言し、有料化《500円》実現と例年になく来訪者確保に貢献)。更に平成19年1月及び平成20年1月、同商工会青年部との連携で「冬のツーリズム尾上農家蔵物語」を開催し、地域連携で冬の観光をアピール。

◇関連機関・関係する団体

弘前大学 農学生命科学部 地域環境科学科 担当：教授 谷口 建
〒036-8561 青森県弘前市文京町3 (0172)39-3848
八戸工業大学工学部 担当：教授 月館敏栄
〒031-8501 青森県八戸市妙字大開88-1 (0178)25-3111
県立柏木農業高校 〒036-0112 青森県平川市荒田上駒130 (0172)44-3015
NPO法人広域連携津軽・ほっとスティネットワーク
〒036-0242 青森県平川市猿賀南野53-10 (0172)57-5190
ホテルアップランド青森県平川市町居南田166-3 (0172)44-3711
尾上町商工会 〒036-0212 青森県平川市尾上栄松37-1 (0172)57-2317



学生対象地域案内人養成講座開催



金屋地区登録有形文化財蔵・蔵並ライトアップ



20年1月24日冬のツーリズム尾上農家蔵物語開催



21年5月15、16日青森リンゴハッピーキャンペーン
リンゴ農作業体験ファームステイ全国各地から28人受入

